

なぜ「オ母サン」という書き方をするのでですか？

この3月に大学を卒業し、更にある資格取得のために進学したメル友から、HPの「『優しさ』って、相手を気遣い、思い遣る心（「雑学BN」のメル友・コメント等関係（Ⅲ）P、2007.06.10.：参照）」の記事を目にさせていただき、次のような問い合わせがあった。

【 私が見落としていたのかもしれませんが、なぜ「オ母サン」という書き方をされていたのでしょうか。 】

次のように返信した。

【 そう、あえて「オ母サン」と記載しました。

この表記に目を止めた鋭い感性、また、気になることは直ぐに確認する行動力は、さすがあなた！

こうした感性、行動力は、大事にしてくださいね。

さて、HP記事の最後に「親になることは易しい、親であることは難しい」と記載していますよね。

単に遺伝子上、また、戸籍上での親のことをいうのではなく、子どもにとっていつも身近にいて生きていて元気を貰える存在の人（一般的には母親ですが）を現す意味で、「オ母サン」とわざわざ表記しました。

「オ母サン」の概念は、以前に「乳幼児期の『自己－他者』形成の最基層について（「雑学BN」の覚え書関係（Ⅱ）P、2005.06.21.：参照）」で紹介しましたが、その概要は次のようなものです。

【 オ母サン（いわゆる、子どもにとって母親に代表されるような存在の人－保育士等含む－）

- ・子どもが一日たりとも離れては生きて行けない人
- ・だからこそ、子どもは苦しみながらも愛し続け、共生を求め続ける人

「好きな人（オ母サン）」がもつ機能

- ・子どもと相互に相手の心を最も「読み取り」合う人
- ・子どもの行動を「意味づけ」てくれる人
- ・子どもが未知の状況に踏み込んで行く時の不安を和らげ、勇気を補給する「安全基地（心の居場所）」の役割を果たしてくれる人
- ・子どもに最も近い味方であると共に、自分に対立してくる社会の代表者（乳児期は、全てを受容してくれたオ母サンが、ある日からしつける存在に）。】

あなたのように、記事の言葉一つにも気になって尋ねてくれる人がいると、文章を推敲していることが報われるようで嬉しいです。ありがとうございます。

これからも気になる点は、遠慮なく聞いてくださいね。

校正ミスもよくありますので、その指摘もよろしく(*^_^*)】

阿部幸泰 （2007年6月12日）